

新潟本社行動計画の取り組み状況について

2023年度 第4四半期進捗報告



2024年5月10日

東京電力ホールディングス株式会社

新潟本社

目次

1. 安全性向上の取り組み
2. 新潟本社運営体制の構築の取り組み **update**
3. 防災支援の取り組み
 - ①緊急時の初動体制
 - ②新潟県原子力防災訓練への協力 **update**
4. 産業活性化の取り組み **update**
5. 地域貢献の取り組み
 - ①長岡技術科学大学との共同研究 **update**
 - ②地域行事への参加 **update**
6. 傾聴と対話の取り組み
 - ①コミュニケーションブース **update**
 - ②県民の皆さまへの説明会 **update**
 - ③発電所視察対応 **update**

2. 新潟本社運営体制の構築の取り組み (2/2)

<新潟県知事の掲げる「3つの検証」へのご協力>

- 新潟県の皆さまの安全・安心のためにも、新潟県が進めている検証作業は重要なことであると考えており、これまでご協力をさせていただきました。
 - 技術委員会 《福島第一原子力発電所の事故原因》
 - ・ 2012年より行われている福島第一原子力発電所の事故原因の検証について、ご協力させていただいております。
(2020年10月26日、技術委員会が知事へ検証報告書提出)
 - 避難委員会 《安全な避難方法》
 - ・ 2017年より行われている原子力災害時の避難方法に関する検証について、ご協力させていただいております。
(2022年9月21日、避難委員会が知事へ検証報告書提出)
- 2023年9月13日、新潟県により3つの検証が総括され、「福島第一原発事故に関する3つの検証～総括報告書～」が公開されましたが、今後も技術委員会における《柏崎刈羽原発の安全対策の確認》に真摯に対応してまいります。

技術委員会 《柏崎刈羽原発の安全対策の確認》の実績

2023年度第3回新潟県技術委員会（開催日：2024年1月29日）において、柏崎刈羽原子力発電所における令和6年能登半島地震後の状況等についてご説明。

また2023年度第4回新潟県技術委員会（開催日：2024年2月15日）では、「水素爆発対策関連」、「地質構造関連」および「柏崎刈羽原子力発電所6号機大物搬入建屋杭の損傷関連」についての追加質問への回答を実施。

3. 防災支援の取り組み ②原子力総合防災訓練及び冬季住民避難訓練への参加

- 2023年10月27～29日に、国、県、市町村、住民の皆さま、原子力事業者が一体となって、柏崎刈羽原子力発電所で重大事故が発生したことを想定した原子力総合防災訓練が実施され、さまざまな訓練に参加しました。
- 2024年2月12日に、県、市、陸上自衛隊、バス事業者、タクシー事業者、原子力事業者が連携し、降積雪期の地震発生による原子力災害時に、道路寸断などで地域が孤立した想定で住民避難訓練が実施され、参加しました。

当社参加の訓練※（参加実績） ※柏崎刈羽原子力発電所以外の新潟県内全域で行われた訓練への参加実績

	訓練項目	当社実施内容	当社参加人数
原子力総合防災訓練	災害対策本部運営訓練等（10月27日・28日）		
	新潟県内各自治体の災害対策本部等における運営訓練	新潟県内各自治体の災害対策本部等への発電所情報等の伝達	12名
	オフサイトセンターにおける運営訓練	オフサイトセンターへの発電所情報等の伝達	4名
	緊急時のモニタリング訓練	UPZ圏内の放射線モニタリング	2名
	住民避難訓練等（10月28日・29日）		
	PAZ内放射線防護対策施設の屋内退避	福祉車両を活用した要配慮者の避難支援	7名
	PAZ内住民避難訓練	避難経路所等の設置、運営支援（住民等の誘導補助）	30名
UPZ内住民の一時移転訓練	避難経路所等の設置、運営支援（住民等の誘導補助）	21名	
スクリーニング・簡易除染訓練 （安定ヨウ素剤緊急配布訓練含む）	住民および避難車両のスクリーニングと簡易除染支援 （スクリーニングポイントにおける安定ヨウ素剤の緊急配布支援含む）	108名	
原子力防災個別訓練	防災訓練に合わせた自治体訓練（スクリーニング測定デモ等）	24名	
冬季	冬季住民避難訓練（2月12日）		
	避難行動要支援者避難訓練	福祉車両を活用した在宅要配慮者の避難支援	2名

10月27日・28日 新潟県災害対策本部等における運営訓練



10月27日・28日 オフサイトセンターにおける運営訓練



10月29日 スクリーニング訓練



2月12日 冬季住民避難訓練



4. 産業活性化の取り組み

- 当社と新潟工科大学の学生と協働で検討している、柏崎レジリエンスセンター緑地エリアの設計・デザインについて、2023年10月に新潟工科大の2期生が実施した「防災キャンプ」以降も、ワークショップを実施し、地域の防災力向上と賑わいの創出に繋げる検討を進めております。

● 第1回ワークショップの様子



季節	春			夏			秋			冬		
イベント	防災キャンプ											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日帯利用	授業											

- 防災キャンプの振り返りと、1期生が検討した活用方法の深掘りを実施
- 季節やイベント毎に出来ることを意見出し

● 第2回ワークショップの様子



- 実現の可能性や実施主体、ターゲット等についてグループディスカッションを実施

● 第3回ワークショップの様子



・実施方法

災害時の~~食住~~ ^{食住}

都市防災コースの学生が中越防災の方から教わる

学んだ学生から学生へ教える

大学生が地域の防災士に教える

・ステークホルダーと課題

・集客 参加学生も集められるか(発信)

- グループ毎に検討結果を発表
- 賑わい創出に向けてアイデア出しを行い、具体的実施事項を検討

5. 地域貢献の取り組み ①長岡技術科学大学との共同研究

- 2024年1月1日に発生した能登半島地震の避難所等で、長岡技術科学大学と当社の共同研究成果（ウォーターチェンジャー®、ブレイカー実験キット）が活用されました。

● 避難所等に設置したウォーターチェンジャーの様子



- 断水地域の手洗い水に利用頂くため、避難所等11箇所にウォーターチェンジャー（商品名：バイオランドリー、バイオシンク）を設置し、ご利用いただきました。

● 通電火災防止に向けた啓蒙活動の様子



- 通電火災防止を目的に、避難所に集まっている被災者の方々に、ブレイカー実験キットを用い、ブレイカー操作方法の説明を行いました。

● 避難所等に災害支援物資を提供



- 被災地を訪れる際は、備蓄していた新潟県産の非常食や保存水も持ち込み、各所に提供いたしました。

5. 地域貢献の取り組み ②地域行事への参加

<参加実績>

地域行事	実施日	作業内容	参加者数
能登半島地震災害ボランティア（新潟県西区）	1月10日 ～2月7日	土砂撤去	延べ78名
千曲川（西大滝下流）水環境保全協議会主催 サケ稚魚放流学習体験会	2月27日	放流お手伝い	5名
JR東日本主催 サケの稚魚放流活動（小千谷地区）	2月28日	放流お手伝い	5名
JR東日本主催 サケの稚魚放流活動（宮中ダム）	3月14日	放流お手伝い	5名
第48回つなん雪まつり	3月9日	スカイランタン点火スタッフ	10名
中魚沼漁業協同組合主催 サケの稚魚放流活動（清津川付近）	3月8日 3月11日	放流お手伝い	8名
高浜コミュニティセンター冬囲い撤去	3月15日	雪囲い撤去補助	6名
夢の森公園冬囲い撤去	3月15日	雪囲い撤去補助	10名

6. 傾聴と対話の取り組み ① コミュニケーションブース

- 新潟県内において「東京電力コミュニケーションブース」を設置し、県内の皆さまからのご疑問やご意見など、さまざまな「声」をお聴きしています。
これまで、県内全市町村において132回開設し、27,278名にご来場いただきました。
- 柏崎刈羽原子力発電所における核物質防護強化の取り組みや発電所の安全性を向上させる取り組みについて、直接地域の皆さまにご説明するとともに、ご意見を頂戴しました。
いただいた貴重なご意見につきましては、今後の発電所運営に活かしてまいります。

開催日程	市町村	場所
1月20日(土) ~1月21日(日)	五泉市	ラポルテ五泉
2月23日(金・祝)~2月24日(土)	南魚沼市	イオン六日町店
3月23日(土) ~3月24日(日)	長岡市	道の駅ながおか花火館
3月30日(土) ~3月31日(日)	上越市	直江津ショッピングセンター・エルマール

■ 会場でいただいた声

- ✓ 万が一の事故時に、社員だけで全て対応できるのか。避難も心配だ。
- ✓ しっかりと安全対策や訓練をしていると思った。
- ✓ 新潟県に電力を供給しているならもっと協力的な気持ちになると思う。
- ✓ 安全への取り組みを直接職員から聞いて理解が増し、努力が伝わった。
- ✓ 再生可能エネルギーの発展に東京電力も頑張ってもらいたい。
- ✓ ブレーカー実験キットは大変勉強になった。



6. 傾聴と対話の取り組み ②県民の皆さまへの説明会

- 地域の皆さまの「知りたいこと、ご不安に思われていること」について、柏崎刈羽原子力発電所の取り組み状況や原子力改革の進捗状況等をご説明するとともに、ご意見をいただくことを目的に、「県民の皆さまへの説明会」を開催いたしました。

開催日	場所	参加者数
2024年 1月28日	刈羽村生涯学習センター ラピカ	70名
2024年 1月30日	柏崎市産業文化会館	149名



■ いただいた声

- ✓ 様々な対策を行っていると思うが、能登半島地震の状況を見ると屋内退避等は本当に出来るのか。
- ✓ 若い世代が現状を知る機会が少ない。視察等に参加できる機会がほしい。
- ✓ 能登半島地震を受け、断層について再調査しないのか。再調査しないと再稼働は許されない。
- ✓ 発電所で働く5,000人以上の職員に、改善への取り組みをどのように伝えていくのか。

【参考】県民の皆さまへの説明会 開催実績（新潟本社設立以降）

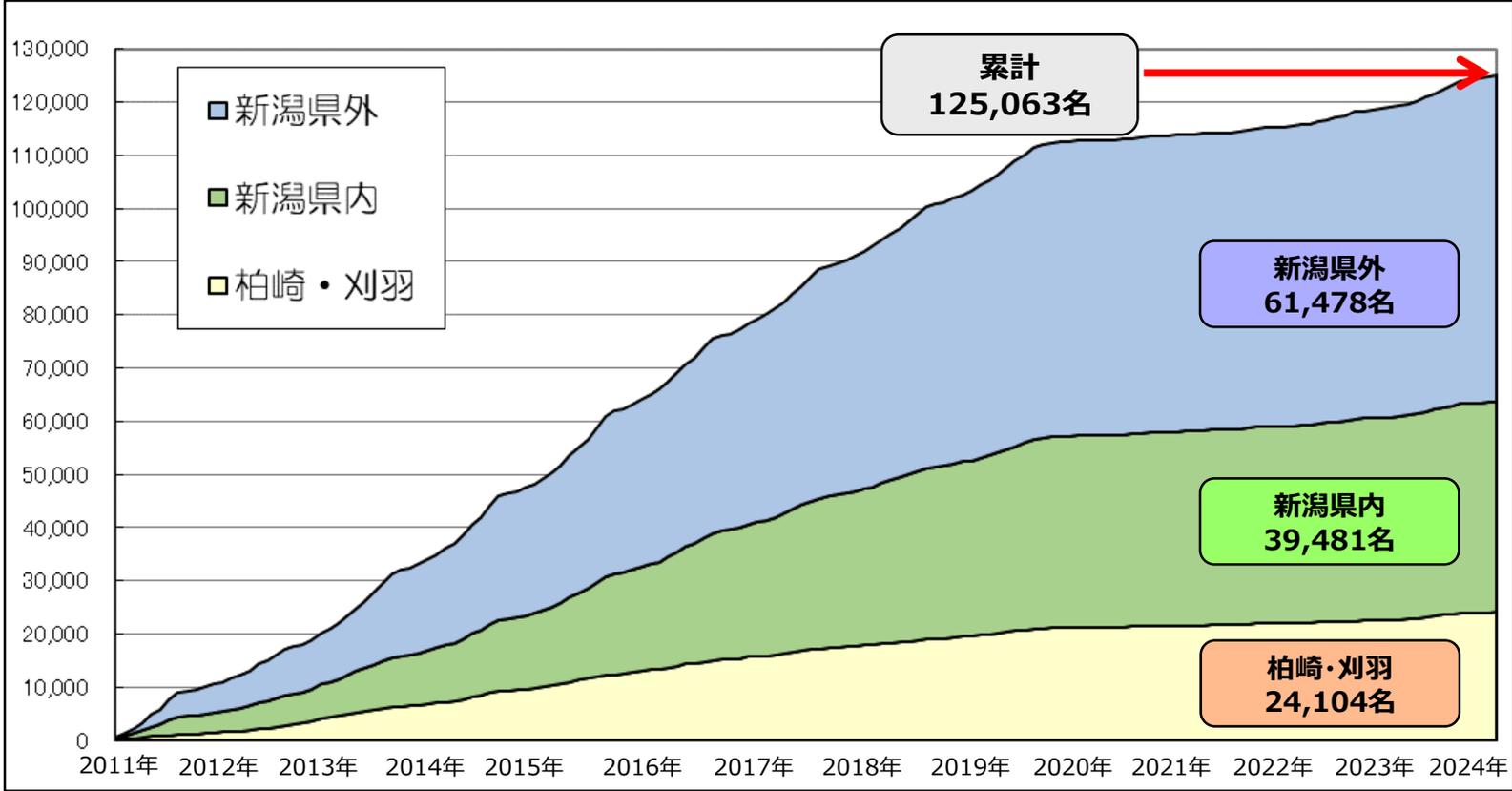
開催日	場所	参加者数	開催日	場所	参加者数
2015年 6月 8日	刈羽村生涯学習センター ラピカ	64名	2023年 1月30日	柏崎市産業文化会館	74名
2015年 6月 9日	柏崎市産業文化会館	128名	2023年 1月31日	刈羽村生涯学習センター ラピカ	39名
2015年12月21日	柏崎市産業文化会館	128名	2023年 2月 7日	長岡リリックホール	73名
2015年12月22日	刈羽村農村環境改善センター	44名	2023年 2月 9日	リージョンプラザ上越	35名
2016年 9月13日	柏崎市市民プラザ	79名	2023年 2月11日	新潟県民会館	87名
2016年 9月14日	刈羽村 高町地区集会場	24名			
2018年 1月30日	柏崎市産業文化会館	98名			
2018年 1月31日	刈羽村生涯学習センター ラピカ	52名			
2021年 1月25日	柏崎市文化会館アルフォーレ	107名			
2021年 1月27日	刈羽村生涯学習センター ラピカ	79名			
2021年 2月 8日	長岡リリックホール	109名			
2021年 2月 9日	上越文化会館	66名			
2021年 2月12日	新潟ユニゾンプラザ	108名			

6. 傾聴と対話の取り組み ③ 発電所視察対応

■ 福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、新潟県内をはじめ多くの皆さまに、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策等の取り組みをご視察いただいております。(2011年以降の視察実績は累計で約12万5千人)

【発電所視察者数】

(2024年3月31日現在)



防潮堤(5~7号機側)



貯水池

